

(2) 西条ブロック (新居浜市、西条市)

～産地づくり～

農地・水の保全と水田農業の推進に努めるとともに、消費者に求められる野菜・花きの生産振興及び落葉果樹を核とした果樹産地の復活を目指します。また、流通・販売を見据えて、安全・安心な農産物が安定供給できる農業を推進します。

～推進品目や産地づくりの方向～

○農地・水の保全と水田農業の推進

1 県育成品種「ひめの凜」の安定生産

【取組】

- ・栽培講習会の開催（栽培マニュアル・中干し・穂肥施用・栽培者募集）で栽培管理を徹底（17回、延べ538人の認定栽培者に指導）

【成果】

- ・栽培面積：303ha（R3年：164ha）
- ・認定栽培者：199人（R3年：122人）
- ・集荷量：1,187t（R3年：722t）
- ・1等米比率：42%（R3年：95%）

2 「ハルヒメボシ」の収量・品質向上

【取組】

- ①栽培指針や専用肥料の検討を行い指導内容を統一
- ②単収向上や省力化を目指し、栽培講習会で適期播種・雑草対策・排水対策・化学肥料低減技術及び適期収穫、ドローン防除実演を指導（8回、延べ96人）

【成果】

- ・生産量：2,165t（R3年：3,725t）
- ・10aあたり収量：287kg（R3年：381kg）
- ・1等比率：68%（R3年：0%）

3 麦作跡に水稻「ひめの凜」を栽培する輪作体系の推進

【取組】

- ①集落営農組織や大規模農家に輪作を指導
- ②産地交付金の二毛作助成の活用を推進
二毛作助成：「はだか麦」後作に「ひめの凜」作付けを推進

【成果】

- ・麦跡の輪作取組面積：169ha（R3年：74ha）

4 大豆「フクユタカ」の生産振興

【取組】

- ・適期播種や排水・病害虫対策及び適期収穫を指導

【成果】

- ・栽培面積：166ha（R3年：148ha）



ひめの凜田植え



ひめの凜栽培講習会



裸麦のドローン防除実演



育苗期管理の講習会

○流通販売を見据えた野菜・花き産地の強化

1 いちご県育成品種の生産拡大

【取組】

- ①「紅い雫」の特長【萎黄病に強い】等を生産者に伝え、品種の切替による栽培拡大を推進
- ②生産者への技術指導を個別指導や講習会で実施
講習会：19回、延べ267人
- ③炭酸ガス施用やリアルタイム栄養診断を活用した高単収モデル実証ほを設置し、高品質・多収穫技術を指導
- ④高設栽培用新規格培土の導入支援

【成果】

- ①②「紅い雫」栽培面積：1.7ha（R3年：1.8ha）
- ③④高単収モデル実証ほ収量：5.0 t / 10a（R2年：4.7t / 10a）
- ③・炭酸ガス発生装置の設置面積：409a（R3年：346a）
・R3年の4.3 t / 10a以上生産者数：36人（R2年：36人）

2 さといもの収量・品質向上による産地拡大

【取組】

- ① 高品質安定生産を図るため、関係機関と協力した疫病発生連絡体制の構築と防除指導の徹底
- ② 優良種苗確保に向け、生産講習会等親芋副芽セル苗増殖法を用いたセル苗生産技術を指導（講習会2回、延べ40人）
- ③ J A広報誌（J A周桑、J Aえひめ未来）の活用等による新規栽培者の確保推進

【成果】

- ① 疫病発生面積率：8%（R3年：54%）
- ② 栽培面積：88ha（R3年：80ha）
- ③ 出荷者数：389人（R3年：405人）
・次年新規栽培者数：8人（R3年：9人）

3 加工用青ネギの生産振興

【取組】

- ① 生育調査と病害虫発生調査により、部会員へ栽培指導を実施
- ② 夏どりに適した品種選定および抽苔防止技術の実証ほを設置し、技術指導を実施
- ③ 新品種が現在の実需者ニーズに適合するかを調査

【成果】

- ① 栽培面積：1.3ha（R3年：1.0ha）
・10aあたり収量：1.9t（R3年：1.8t）
・栽培マニュアルを作成し部会員へ提供
- ② 夏どり品種として「春京香」を選定、抽苔を防ぐ肥培管理を実証
- ③ 新品種は流通に問題ないことを確認

4 「ピットスポラム(花木)」や「さくらひめ」など花木・花きの産地化推進

【取組】

- ① 東予地域花木生産対策会議で、技術課題の対策や販売促進活動について検討
- ② せん定講習会を開催し、生産者の栽培技術の高度化を指導
- ③ 優良種苗の安定供給に向けた挿し木講習を実施
- ④ 産地の知名度向上と需要拡大を図るため、東京大田花き市場で3農協合同花木PRを実施
- ⑤ 「さくらひめ」の夜冷育苗による良質苗生産技術を指導

【成果】

- ①～④ 花木栽培面積：3.5ha（R3年：2.5ha）
・花木栽培者：33人（R3年：22人）
- ⑤ 「さくらひめ」栽培面積：4.8a（R3年：6.7a）
・「さくらひめ」栽培者：4人（R3年：6人）



親芋副芽セル苗増殖法を用いた講習会



夏どりに適する新品種



農協合同 花木PR

○落葉果樹を核にした産地の復活

1 「太天」の大玉果安定生産

【取組】

- ① 大玉果生産に向けた栽培講習会と面積拡大の推進
・摘蕾講習 ・摘果講習 ・剪定講習
- ② 汚損果軽減を図るため、関係機関と連携し実証圃を設置
・8～10月、カルシウム剤散布 ・品質調査
- ③ 作業性と正品率の向上等を図るため平棚栽培を推進

【成果】

- ① 栽培面積：7.2ha（R3年7.1ha）、生産量：81t（R3年67.8t）
- ② 正品率：88.8%（R3年71%）
- ③ 棚栽培面積：1.5ha（R3年1.5ha）

2 「サンゴールド（キウイフルーツ）」の生産振興

【取組】

- ① キウイフルーツかいよう病に強い品種「サンゴールド」への改植を推進
- ② 大規模栽培法人への支援

【成果】

- ①～②により、
・栽培面積：80.4ha（R3年：62.8ha）
・生産量：671t（R3年：609t）
うち「サンゴールド」栽培面積：29.4ha（R3年：14.5ha）
うち「サンゴールド」生産量：103t（R3年：97t）



大玉果に向けた摘果講習

～地域づくり～

重点課題として、①地域農業を支える担い手の確保・育成、②地域を元気にし、農業を支える仕組みづくり、③地域資源を活用した農業再生、の3項目を推進します。

そのために、農福連携、鳥獣被害対策、6次産業化、荒廃農地対策等を総合的に組み合わせた地域づくりにも取り組みます。

～推進対象や地域づくりの方向～

○地域農業を支える担い手の確保・育成

1 農家アドバイザーによる担い手育成の強化

【取組】

①農業指導士、認定農業者協議会理事他29人を地域農業者のアドバイザー

としてリスト化し、指導・支援体制を整備

②就農初期農業者の意向調査結果を説明し、アドバイザーの資質を向上(参加者6人)

【成果】

・農家アドバイザーの指導により、地域農業者の実践的な栽培技術や農業経営の知識が向上

2 将来のプロ農家の確保、育成

【取組】

①市、JAと連携し就農相談活動を実施

(西条、周桑、新居浜で53人に対し、計76回就農相談を実施)

②就農初期農業者への技術指導

アドバイザーを活用した研修会開催(6回、延べ41人)

農業基礎技術習得に向けた研修会を開催(7回、延べ121人)

アドバイザーによる個別サポート(随時)

③就農5年目未満の就農計画目標未達成者7人を重点指導対象者とし、技術や経営面を重点的に指導

【成果】

・新規就農者20人確保、5人が就農準備を開始

・研修会による基礎技術の習得により、地域農業者の農業経営の意欲が向上

・認定新規就農者が認定農業者として認定：6人



農家アドバイザーが
新規就農者を指導



関係機関が連携し、月3
回就農相談会を開催



受注システムデザインの検討



さといも収穫作業研修会

○地域を元気にし、農業を支える仕組みづくり

1 農福連携による農業法人(集落)の労働補完推進

【取組】

①農福連携マッチングのデジタル化を進めるため、関係者による支援体制を整備

②受注システムデザインの検討とデジタル化したシステム開発

③福祉事業所共同窓口とJA、県によるさといも収穫マッチング実施

④新たな農福連携対象品目の検討

【成果】

①農作業受注システム検討会を開催(2回)

②受注システムデザインの検討(8回)

③さといも収穫作業のマッチング希望面積の拡大
(R3年：3ha → R4年：14ha)

④・そらまめ：収穫作業(1回)、さといも：除草作業(1回)

・アスパラガス：ハウス除草作業(5回)、親株除去(2回)

2 鳥獣害対策の推進

【取組】

- ① 広域化する鳥獣被害の課題解決策を検討
被害対策をけん引するえひめ地域鳥獣管理専門員を育成支援
東予地域えひめ地域鳥獣管理専門員連絡会を開催：3回
- ② モデル集落の育成による住民主体の鳥獣害対策を推進
・モデル集落の選定 ・地域づくり ・守りの対策支援
- ③ 被害が拡大するサル対策の推進
モデル集落での集落住民主体の取組を支援
新技術導入の実証 ・追い払い ・改良型複合柵

【成果】

- ① ・えひめ地域鳥獣管理専門員の育成：1人（JA指導員）
・えひめ地域鳥獣管理専門員による指導者育成研修会を開催
：1回（野生鳥獣対策に関する基礎知識、防護柵設置実習指導）
- ② モデル集落を西条市丹原町志川・明穂集落に選定し、
対策実施を指導：4回
- ③ ・大型捕獲檻、小型箱罠の捕獲実証：サル23頭捕獲
・新技術（追い払い、改良型複合柵）導入実証
※継続して効果検証中



指導者育成研修会の開催



ICTを活用した追い払い実証

○地域資源を活用した農業再生

1 都市部における地産地消の推進

【取組】

- ① 産直市向け高収益作物（ミニトマト「プチぷよ」）として軽量野菜の導入を推進
（実証ほ設置：4か所 栽培講習会：1回実施）
- ② 産直市向け高収益野菜（ミニトマト「プチぷよ」）に係る消費者ニーズの把握のためにアンケート調査を実施
- ③ 「白いも」におけるコガネムシ被害低減対策等実証
（実証ほ設置：1か所）
- ④ 標高差を利用した野菜（じゃがいも）のリレー栽培実証
（実証ほ設置：2か所）

【成果】

- ①②④産直市販売額2.3億円（R3年1.8億円）
- ③実証区収量1.9t/10a、対照区収量1.6t/10a
（R3年1.8t/10a）

2 6次産業化の推進

【取組】

- ① 6次産業化サポートセンターを通じ、国事業による中央プランナー等の派遣を受け、経営改善と新加工品の開発を支援：1件
- ② エディブルフラワーを利用して新たに6次産業化を目指す農業者等を指導：1件

【成果】

- ① 6次産業化チャレンジ支援事業を利用して加工品を開発：
1品目（餅加工品）
- ① 自家生産米を利用した加工品の販路拡大：2件（石鎚山SA、首都圏のスーパー）
- ② 指導継続中



「白いも」の実証ほ設置作業



新商品開発のために機器を導入

～水田圃場整備を推進して農地集積を図ります～

○大区画化により担い手への農地の集積・集約化を目指す

1 県営ほ場整備事業

【取組】

- ・実施中5地区（氷見上部、新宮・藤木、大頭、道場、安井）において早期完成に向け工事を実施し、計画中1地区（一本松・新屋敷）において事業計画書を作成

【成果】

- ・実施中5地区において令和4年度までに132haを整備し、大区画農地で作付け開始。計画中1地区において令和5年度のハード事業着手に向け国に実施申請し事業採択

2 国営ほ場整備事業「道前平野地区」

【取組】

- ・円滑な事業実施に向け、国及び市等との連絡調整を図るとともに地元ほ場整備委員会に対し、合意形成に向けた説明会を実施

【成果】

- ・国営ほ場整備事業「道前平野地区」19団地、650haのうち、令和4年度までに7団地で179haが整備され、大区画農地で作付け開始

3 団体営ほ場整備事業

【取組】

- ・実施中1地区（飯岡亀の甲）において委託業務を実施し、計画中1地区（庄内五ヶ谷池下）において地元調整を実施

【成果】

- ・実施中1地区において工事図面を作成し、令和5年度から工事に着手。計画中1地区において令和5年度の計画書作成に向け国に実施申請し事業採択



県営事業で整備された農地



地元委員会開催状況(国営事業)



整備後の作付状況(キャベツ)

～地域の特性と時代の変化に柔軟に対応し畜産基盤の承継を図ります～

○次代の担い手への経営継承支援

1 畜産新技術等導入支援事業

【取組】

- ①新技術等を導入するための体制整備を希望する農家に対し、補助事業や資金の情報提供と円滑な新技術導入を支援

【成果】

- ①飼料の効率的給与装置等の新技術導入支援 4戸
新技術等導入等を用いた既存施設の補改修支援 3戸

2 家畜伝染病の発生予防技術の導入やまん延防止体制の推進

【取組】

- ①家畜伝染病を予防するための衛生管理技術指導及び補助事業や資金の情報提供

【成果】

- ①家畜伝染病予防法第6条に基づく予防的ワクチン接種
養豚農家を対象にワクチンプログラムを実施：9戸



飼料の効率的給与装置の導入
(養豚)



暑熱対策装置の導入(酪農)